

大学院生がファンドから出資受け新会社設立

崇城大学大学院の古賀碧さん(24歳)



▲中山峰男崇城大学学長との記念撮影で、「くまレッド」を手に笑顔を見せる㈱Ciamoの面々。(左からチャン ティ ジウ ヒエン グローバルマネージャー、古賀碧代表取締役社長、中山峰男崇城大学学長、後藤みどり専務取締役、森瀬太一アグリマネージャー)



▲記者の質問に答える古賀碧社長

▼囲み取材に応じる古賀碧社長。新会社設立の記者会見では、地元メディアはじめ多くの報道関係者が詰めかけた



▲写真中央が光合成細菌「くまレッド」と左右が培養液

古賀社長は「世界の環境問題の解決に役立つ商品として育てていきたい」と抱負を語った。
(企画開発部・徳山)

光合成細菌は、農水産、畜産、医薬品、環境・エネルギーなどのさまざまな分野で応用が期待されている有用細菌の一つ。生産コストの高さが課題とされていたが、焼酎粕を使った培養技術を開発し低コスト製造を実現したことで、同様の商品と比べ価格も半値程度に抑えた。

崇城大学大学院工学研究科の古賀碧さん(24歳)は4月23日、微生物資材の研究開発および製造販売の新会社を設立した。

崇城大学の起業ファンド、SOJOSタートアップラボ(株)熊本市西区池田4丁目、谷川多恵子社長)から出資を受け設立したもので、社名は㈱Ciamo(しあも)。

資本金1250万円。本社は熊本市西区池田4丁目の崇城大学池田キャンパスG号館2階207号に置く。社長の古賀さんは同大学院工学研究科に籍を置く現役の大学院生。主業務である微生物資材の研究開発および販売事業は、古賀社長が崇城大学起業部在籍時に、国内のビジネスプランコンテストで2度の優勝を果たすなど高い評価を受けていたビジネスプラン。同社では焼酎粕を原料とした光合成細菌培養キット「くまレッド」(初回購入税別4900円、2回目以降税別3900円)を製造・販売しており、5年後に10億円の販売を見込んでいる。